

■ シルバー大学校で「SDGsに視る気候変動と健康福祉社会」について講義をしました。 ■

気候変動が衣食住にどのような関わりがあるか、SDGsの視点から理解をしていただいた。

温暖化がもたらす健康(疾患・感染症)事例を交え、わたしたちのライフワークや社会に対してその影響と緩和策を講義しました。

期間：2021年12月～2022年6月

場所：栃木県シルバー大学(中央校・南校・北校)

参加者を30名程度に分散して16回開講

講師：齊藤好広

内容の一例紹介

3 **健康と福祉**

地球の健康と人間の健康はひとつ：ワンヘルス

人間の健康な暮らしは、自然に支えられています。湿地のろ過や浄化機能によって淡水が供給され、植物から伝統薬や医薬品などが開発されることで、人々の健康は維持されています。つまり、自然の衰退は人間の健康に大きく影響します。

例えば、感染症は新型コロナウイルスはまだ詳しく解明されていないものの、最近発生している感染症のうち60%は動物が起源とされています。野生動物の売買からヒトに感染したと考えられています。また、ここ数十年で、人間が森林伐採して農地や畜産に利用したことで、家畜、野生動物との接触が増えたことも原因とされています。

最近では、ワンヘルスやプラネタリーヘルスという考えが提唱され、人の健康と地球環境とが密接な関係にあることを再認識し、健康、福祉の増進と公平な社会をめざすことが求められています。

※「ワンヘルス」:人、動物、環境の衛生に関わる者が連携して取り組むこと
※「プラネタリーヘルス」:地球の健康、つまり、人類を含めた多様な生物が生命を維持できる自然環境を有し、地球上で人類が安全に有機的な活動ができる状態



シルバー大学中央校の授業風景



シルバー大学南校の授業風景1



シルバー大学南校の授業風景2